

令和7年度 第6回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和8年2月12日（木）午前9時30分～午前10時30分

ところ：市役所5階 505会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 9人（1人欠席）

傍聴者 なし

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和8年二十歳の集いについて（報告）

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（1月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（3月）について

【図書館】

- (1) 上宿図書館の臨時休館について
- (2) 図書館主催イベント（12月～2月）について（報告）
- (3) 図書館主催イベント（3月）について

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 令和8年度の統一テーマに関して、令和7年度から自主研究として社会教育委員で話を進めてきた。社会教育委員全員の思いが一つの言葉にまとまることは難しいかと思っただが、最後の最後で社会教育委員全員の思いを酌むことができたと思っている。テーマがまとまったことに対して、本当に感謝している。役員会でも承認され、ほっとしている。今度の理事会で正式決定となる。26市3町の中でこのような機会に恵まれることは本当に運がいいと思っている。

「わくわく」の言葉が、テレビなどで出ると、広がる思いがつながっているを感じる。またハーモニーも改めて見て、とてもいい言葉かなと思っている。このテーマに沿って令和8年度、よりよいものに進んでいけばいいと思っている。ありがとうございます。

○委員 役員会のときに、どのような経緯で私たちの思いが決まったのか、テーマの案にどのような気持ちが込められているかについて補足で説明をさせていただいた。それを読ませていただく。

2か月に一度開かれる会議の後の自主研究の時間に、私たちは社会教育委員として何を指すのか、何を実現したいのかについて検討を重ねてきました。そんな中、徐々にまとまってきた意見は「誰もが笑顔でいられる居場所づくり」でした。様々な理由で生きづらさを感じている人も含めて、すべての人に安心できる居場所がある社会を目指すとの気持ちです。そして、その後もさらに検討を重ねた結果、それぞれの人にそれぞれの居場所があると同時に、大きな社会の中ですべての人が孤立せず、ありのまま受け入れられ尊重されて、ともに笑顔で暮らしていける。そのような社会をつくっていくことが私たちの最終的な目標であるとの思いに至りました。

そして、そのような社会をつくるためにはつながることが必要です。地域で活動している団体や組織、そして様々な人々がつながり、対話を重ね、学び合い、相手を理解することが、みんなが笑顔でいられる「わくわくの共生のまちづくり」に欠かせないのだと思います。みんなの声が重なり響き合う、そんな優しい社会をつくっていききたいよねという思いをこの統一テーマに込めました。以上です。

○委員 二十歳の集いについて。小学校の放課後こども教室でも関わってきたこどもたちが成人になって会うことができる機会として、いつも参列させていただいている。本当にすばらしい進行で、とてもすてきでよかったと思った。

よさこいスクールダンスフェスティバルでは運営をさせていただいている。そのため、空席への誘導などが気になって見ているが、空席へスムーズに誘導されていたのは本当にすばしかった。

○委員 公民館の報告の、行事への参加者数の増加について質問がある。この資料では毎年参加者数が増加していることが分かる。それがとてもよいと感じた。令和3年度や昨年度は恐らくコロナ禍だったことも影響して、人数が少なかったと思うが、令和5年度、6年度については数百人の参加者数の増加が見られる。この増加している要因について何か分析があれば教えてほしい。

○事務局 公民館まつりは、公民館の利用団体などが成果発表する場であるが、一般の方の参加

が少ない状況がある。そのため一般の参加者を増やすために、チラシ以外に、職員も一緒に参加しようとして取り組んでいる。また、懇談会、ビートルズを楽しもう、フォカッチャを作ろうなど、なるべく多くの地域の方に来ていただく取組をここ数年、力を入れている。そのような取組を行うことにより、利用者が増加につながっているのではないかと考えている。

○委員 二十歳の集いに出席した。その感想を述べたい。

実行委員をしている方たちのお友達が、自分の友達が実行委員をやっているというのを見て、その友人たちもその場を盛り上げようとしているところが見受けられ、すごく温かい気持ちになった。参加率も毎年上昇していて、アーカイブの再生回数も前年度より大幅にアップしているとのことであった。継承されているとの印象を受けた。先輩から後輩へつながっているものがあるのかなと思った。

抽せん会の協力事業所のお名前を見ると、今までになかった事業者名も入っていた。これらは実行委員の方々が実際に足を運んで交渉して開拓されたのではないかなと拝察している。前回の会議では実行委員みんなが集まる機会はなかなかないとの話であったが、事務局がその点で負担が掛かっているのではないかなと思ったが、一方で来賓の立場では、いい会を拝見させていただいて本当にありがたいと思った。

○事務局 二十歳の集いに参加していただき、ありがとうございました。事務局の負担についてですが、昨年度、今年度と実行委員会に同席して、今年は実行委員の横のつながりにより、抽せんの景品を提供いただく市内の事業者さんの開拓など、委員みんなが協力し合い進めていた印象が強かった。本当にスムーズに進んだという感じであり、事務局の負担は大きくは感じなかった。

また、委員からのお話にあったとおり、会場と委員とのつながりの中でイベントを盛り上げていくことが伝わる、いい二十歳の集いだった。

○委員 図書館の開館50周年記念講演について、意見と質問がある。電子図書館が完成され、ありがとうございました。期待して使っている。電子図書館は利便性の向上だけではなく、誰もが同じように使えるような環境下に整えていく点でもすごく大事だと思っている。講演については、とても期待している。学びの拠点としての図書館を地域の課題解決として使っていく段階の電子図書館の役割とは、あるいは電子図書館を使いこなせない人が使えるようになるか、情報格差の問題、デジタルデバイドの問題、また、図書館に来館できない人に対して、いかにして電子図書を使っていたか、さまざまな課題があると思う。それらに関してもどのようなお話をされるのか、読書バリアフリー法の観点でお話しされるのではないか思い、期待している。もし、講演の概要など分かれば教えていただきたい。

○事務局 こちらの講演の内容ですが、委員のお見込みのとおり、デジジー等の読み聞かせやデジタルデバイスなどを含めて講演の依頼をさせていただいている。先生の専門分野でどこまでお話しただけか、我々のほうも期待している。現在、講演の調整中であることから、意見があったことをお伝えさせていただく。

○委員 図書館について。多様な方に対応することが求められている。さらに、DX化になると、これまでとは格段に速度が違うことになる。例えば図書館について、地元図書館がない場

合は、前は国会図書館に行かなければならなかった。ところが今は、所蔵がどこにあるか即座に分かる。また、検索の仕方も多様になってきている。それらを本当に使いこなすための手法は何か。私は、要するにアドバンスコースとビギナーコースと2種類あるといいと考えている。一人の方がお話しになる場合はなかなか時間を割くの難しいかもしれない。両方立てに考えていただくとありがたいなと思いました。本当に社会教育として図書館というのは情報のタブーであるだけですよね。ですから、その機能がいかに優れているかによってその地域の学習成果、あるいは学習に向かう力、先ほど言いました雰囲気ですかね、誰もがまた再チャレンジできる、そういうところにつながってきますので、どうぞよろしく願いいたします。

○委員 公民館だよりの最後のページに記載があるウーパールーパー等に関する感想である。めだかクラブについては、中央公民館の中庭に水槽がたくさんあって、以前、自分のこどもが何か講座に参加するときや、末っ子が参加できないときなどで、待ち時間があつたりすると、中庭にある水槽を眺めたり、また、かつては餌やりもでき、こどもたちの公民館へ行く一つの楽しみになっていた。ぜひ今後もめだかクラブさんの活動を続けてほしいなと思っている。うばまる（ウーパールーパー）は、まだ会えていないが、公民館へ行く楽しみになっている。

○事務局 めだかクラブの活動について。今回のオール公民館まつりでも、めだかすくいをやるか、めだか相談会をやるか、議論を重ねている。また、寒い時期はメダカの動きが悪いことがあり、どれを選択するか決め切れていない。様々な方に公民館を使っていただくための取組としてフリースペースを増やしたり、あるいは生き物を増やしたり、なるべく来ていただく回数を増やす試みをいろいろやっている。今回いただいた感想は、めだかクラブさんにお伝えしたいと思う。ありがとうございます。

○委員 二十歳の集いの感想である。すでに別の委員の方の感想も出ていて、重なる部分もあるが、とても温かい雰囲気であった。来賓として招待いただき、ありがとうございます。来賓席の位置も従来の座席とは異なり、客席の端に用意されていて、なおかつ誘導の方も上手に誘導されていた。来賓席の空席についても、担当者が状況を確認して参加者を誘導していた。式典の内容や吹奏楽演奏やアトラクションなど毎年とても楽しみにしているが、今年はそのような感想を持った。

○事務局 二十歳の集いに関してのご感想ありがとうございました。来賓席については、昨年度まで客席の真ん中に位置づけていたが、二十歳の方が主役であることを考え、今年度は来賓席を、客席の端へ移動させた。それがよかったのかなと思っている。感想にあった温かい雰囲気、会場と実行委員が一体になっていたことについては、来年度に活かしていきたいと思う。ありがとうございます。